

君津市学校再編第2次実施プログラムについて

教育委員会

昨年11月に「学校再編第2次実施プログラム（案）」を公表し、地区説明会やパブリックコメント等を実施した。市民の方々からの意見や要望を幅広く聴取し、プログラムを作成した。

1 地区説明会等における意見概要 別紙1

市内8会場で地区説明会を開催するとともに、保護者や自治会からの要請による意見交換会を実施し、延べ302人の参加をいただいた。

統合については概ね賛意を得られたが、統合後の使用校舎をしっかりと整備してほしい、通学路の安全対策を徹底してほしいといった意見、一部では、大和田小を使用校舎としてほしいという意見もあった。

2 君津市学校再編第2次実施プログラム（案）に係るまちづくり意見公募手続の実施結果について 別紙2

学校再編第2次実施プログラムの作成にあたり、市民協働のまちづくり条例に基づく、パブリックコメントを実施した。

意見の件数としては、提出者数が30人で意見数が85件であった。

3 学校再編第2次実施プログラム（案）の一部修正等について 別紙3

これまでいただいていた全ての意見や学校運営の面、教育活動の面、通学距離を踏まえた通学手段などを検証し、修正・追記した。

また、統合を円滑に進めるとともに、保護者や地域関係者との対話を継続していくことを明らかにしていくため、付帯事項として追加した。

地区説明会等における意見概要

1 実施結果について

(1) 地区説明会（11月16日～11月30日 参加者258人）

- ・周西公民館 ・大和田小学校 ・坂田小学校 ・小櫃公民館 ・北子安小学校
- ・八重原小学校 ・生涯学習交流センター ・上総地域交流センター

コミュニティ・スクール説明会（1月28日、30日 参加者16人）

- ・松丘コミュニティセンター・亀山コミュニティセンター

(2) 意見交換会への参加

- ・坂田自治会（12月1日、坂田青年館、参加者13人）
- ・学童保育（12月21日、大和田小学校、参加者15人程度）

2 主な意見について

<統合について>

- ・子どもたちの環境を考えると、統合は賛成である。
- ・いじめ等があった時に単学級では苦慮するため、3クラスほしい。
- ・使用校舎を坂田小より広い大和田小にしてほしい。
- ・統合を機に坂田小の校舎や体育館をしっかりと整備してほしい。
- ・統合校の駐車場として、周辺施設を活用するなど、検討してほしい。
- ・施設改修内容を早く示してほしい。

<通学について>

- ・通学路の安全対策を徹底してほしい。
- ・人見の神門地区の通学距離が長くなるので、通学手段を検討してほしい。
- ・雨の日は君津高校前の道路が渋滞しており、解消してほしい。
- ・学区の弾力的な運用は、非常に良い取り組みである。

<特色ある学校づくりについて>

- ・小中一貫教育校の設置、キャリア教育の推進をぜひやってほしい。
- ・地域の活性化につながるキャリア教育には将来性を感じた。
- ・コミュニティ・スクールは、既に地域として取り組んでいるものが多々ある。
- ・特色ある学校づくりについては、市全体に広めてほしい。

<跡施設について>

- ・跡施設について、どのように考えているのかを示してほしい。
- ・避難所となる体育館等のあり方について、今後の見通しをもって進めてほしい。

<その他、学校再編に係ることについて>

- ・学校再編をまちづくりと一体的に考えてほしい。
- ・学校再編にあたって学童保育も一体として考えてほしい。
- ・体育館開放について、現状の活動ができるように、調整してほしい。

君津市学校再編第 2 次実施プログラム（案）に係る まちづくり意見公募手続の実施結果について

教育委員会

令和元年 1 月 1 4 日から令和元年 1 月 1 3 日まで意見募集を行ったところ、以下のとおり意見がありました。

1 意見の件数

意見数 8 5 件（提出者数 3 0 人）

2 提出方法

書面の提出	5 2 件（1 7 人）	郵送	0 件（ 0 人）
FAX	9 件（ 3 人）	電子メール	2 4 件（1 0 人）

3 意見の概要及び市の考え方

市の対応区分

対応区分		意見の件数
A	意見をもとに、施策案を修正したもの	1 3 件
B	意見の考え方が施策案に含まれていたもの	2 6 件
C	意見を施策案に反映しないもの	1 1 件
D	その他、施策案に直接関係ないもの等	3 5 件

	意見の概要	対応区分	市の考え方
1 ～ 11	通学距離が長くなることによる安全面や健康面、学習面に配慮するとともに、コミュニティバス等の積極的運用を検討してほしい。	A	統合に伴い、通学路の変更や通学距離が長くなります。通学路の点検や児童への登校指導を充実させ、安全確保に努めます。通学時間が長くなることによる健康面や学習面の課題については、学校・保護者・地域関係者・警察等関係機関と通学手段も含めて協議してまいります。
12	小中一貫教育校では、周西中のグラウンドを小学校が使用するなど、効果的な施設の利用を検討してほしい。	A	施設隣接型小中一貫教育校のメリットとして、合同行事や施設の共有などがあげられます。周西中のグラウンドの共有など、学校の教育目標を踏まえて検討してまいります。
13	小中一貫教育校の設置やキ	A	周西中学校校区は、これまでも高校も含

	<p>キャリア教育の拠点校の指定を軸とした教育の展開は、この地域にしかできない特色のある取組として期待したい。</p>		<p>めて連携を深めてきました。施設隣接型小中一貫教育校による教育の充実、地域と連携したキャリア教育の展開など、立地条件を最大限に活かした教育活動を展開してまいります。</p>
14	<p>大和田小と坂田小については、学校の距離が近く統合することについては問題がない。</p>	B	<p>君津市の人口増により、設置された大和田小、また3年後に分離開校した坂田小は、周西中を間に挟み隣接しており、学校間の距離が非常に近い立地です。分離開校したとはいえ、両校共に統合時には、50年以上の歴史がありますので、学校が築き上げてきた伝統や文化を尊重しながら、統合の準備を進めてまいります。</p>
15	<p>使用校舎を坂田小とすることについて、統合後の児童数推計を見る限りでは、統合しても十分に教育活動が展開できると考えられる。</p>	B	<p>統合後に使用する坂田小校舎は、これまでも500人から600人の児童で学校生活を送っていた時期もありました。統合に伴う児童数増に対応した施設整備など、子どもたちが充実した学校生活を送れるよう教育環境を整えてまいります。</p>
16	<p>小中一貫教育に加えて君津高校と連携する上で、坂田小と大和田小の統合に坂田小の校舎を使用することは賛成であり、非常に有益だと考える。</p>	B	<p>周西中学校区には君津高校もあり、4校が隣接しており、これまでも連携した取組がされてきました。その立地条件を最大限に活かした教育活動を展開するために坂田小校舎の位置が最適と考えております。子どもたちにとってよりよい教育環境を整えてまいります。</p>
17 ～ 19	<p>コミュニティ・スクールについて、少子高齢化の中で、助け合って地元を盛り上げる、とてもすばらしい取組である。地域の人々が動きやすい仕組みを整えてほしい。</p>	B	<p>コミュニティ・スクールは地域と学校の力を循環させ、地域と学校をともに生き活きとさせる取組です。周西南中学校・周西小学校への導入（第1次実施プログラム）にあたっては、事前に、学校や地域の方々とコミュニティ・スクールの仕組みについて、意見交換や共通理解を深める機会を設けました。今後の導入校についても、そのような機会を積極的に設け、有意義な取組にしてまいります。</p>
20	<p>キャリア教育では、広い世界</p>	B	<p>子どもたちの社会的・職業的自立に向</p>

～ 21	で活躍できる夢を持たせるような充実した取組をしてほしい。		けて必要な基盤となる資質・能力を育成し、世界を舞台に活躍できる夢を持たせられるよう、地域や社会、産業界と連携したキャリア教育の実践に努めてまいります。
22 ～ 29	教室や体育館など、児童数増に対応した施設改修をしてほしい。遊具や水辺空間等の充実した教育環境の整備や親の送迎、行事等のための駐車場を確保してほしい。	B	坂田小校舎は、これまでも500人から600人の児童で学校生活を送っていた時期もありました。統合に伴い、現状よりも児童数が増加することになります。人数増に対応した施設整備も含めてよりよい教育環境となるよう整えてまいります。
30 ～ 31	児童に対するきめ細かな指導や学習の補助等を充実させてほしい。	B	統合することのメリットの一つとして、教職員定数の増が挙げられます。統合により学級人数については、多くなる場合と少なくなる場合がありますが、補助教員が増えることで、より充実した指導が期待できます。きめ細かな教育となるよう教育環境を整えてまいります。
32	両校の教員、保護者、児童、未就学児にアンケートを取るなどの配慮が必要である。	B	平成29年度に「君津地区を対象とした保護者アンケート」を実施し意見を聴取しております。そこでいただいた意見を踏まえて統合を決定いたしました。統合は、児童や保護者、教職員、地域の方々にとって負担がかからないように、十分に配慮しながら進めてまいります。
33	維持費などの予算の面ではなく、実際に6年間過ごす事になる子どもたちのことをよく考えてほしい。	B	学校再編は、子どもたちにとってよりよい教育環境を目指し、学校を活性化させることです。子どもたちが安心して成長できる場となるように整えてまいります。
34	学校の先生方は大変忙しいので、それぞれの目標を実現させるためには、教育委員会等の支援や、地域の人々の協力できるしくみを準備してほしい。	B	統合に向けて、学校、保護者、地域の方々で構成される統合準備室を組織してまいります。様々な事項について協議しながら準備を進めてまいります。また、小中一貫教育校の設置においても、委員会を立ち上げて円滑に準備を進めてまいります。
35	誰にとっても「良かったね」	B	学校再編は、子どもたちにとってより

～ 36	と思えるような統合にしてほしい。		よい教育環境の整備を目指し、学校の活性化を進めていくものです。学校の統合は、教育環境の変化が伴いますが、学校と連携しながら子どもたちにとってよりよい教育環境となるように準備を進めてまいります。
37 ～ 39	学区の見直し、弾力化について、対象地区以外からの希望があれば、その都度検討し、対象地区の見直しをしていくべきである。	B	これまでの地区説明会や保護者アンケートにおいて、ご意見、ご要望の多かった学区の弾力化については、令和2年度から、対象区域において運用を開始いたします。対象となっていない区域については、ご意見を踏まえて、今後、検討してまいります。
40 ～ 42	のびのびと学習や運動、生活をさせたいので、施設や敷地が広い大和田小を使用校舎としてほしい。	C	使用する坂田小校舎については、統合に伴う改修により、学習、生活に必要な施設・設備を整えるので、教育課程上、問題はないと考えます。敷地の有効活用も踏まえ、よりよい教育環境を整え、子どもたちがのびのびと学校生活を送れるように準備を進めてまいります。
43 ～ 46	市の予算や工事期間、改修内容等を提示してほしい。今回の意見や質問等をフィードバックした全体の説明会を開催し、皆が納得した上で統合してほしい。	C	統合に伴う施設整備等の予算や内容については、現時点で決定しておりませんので、具体的に提示することはできません。また、地区説明会のような大規模な説明会は予定しておりませんが、ご要望があれば説明に伺います。
47 ～ 48	大和田自治会全域を大和田小学区に見直していただきたい。	C	大和田自治会の大和田4丁目と5丁目においては、保護者アンケートや指定学校変更の状況等を踏まえて、今回のプログラムでは見直しをいたしません。今後も状況を注視しながら検討してまいります。
49 ～ 50	急いで2月に決定をするのは、保護者や周辺住民の不安が募るので、決定の延長を希望する。	C	第2次実施プログラム（案）については、これまでに様々な機会を得た市民からのご意見を取りまとめて作成したのになります。決定にあたっては、地区説明会やパブリックコメント等のご意見を踏まえて決定いたします。
51	統合準備に関すること	D	子どもたちにとってよりよい教育環境

～ 53			を目指し、学校、保護者、地域の皆様とともに取り組んでまいります。
54 ～ 60	子育て支援等に関する事	D	貴重なご意見をありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
61 ～ 70	第1次、第3次実施プログラムに関する事	D	
71 ～ 85	その他、学校再編に関する事	D	

4 結果の公表

- (1) 公表場所：学校再編推進課、行政センター、公民館、コミュニティセンター、中央図書館、市のホームページ
- (2) 公表期間：令和2年2月13日から3か月間

第2次実施プログラム（案）の一部修正等について

1 統合について 《再編の内容》 本冊3ページ

修正後 通学区域の拡大、通学路の変更があることから、学校・保護者・地域・警察等関係機関との連携を強化し、児童の安全確保に努めます。また、通学手段についても検討します。

修正前 通学区域の拡大、通学路の変更があることから、地域と学校の連携を強化し、児童の安全確保に努めます。

⇒通学区域の拡大、通学路の変更があることから、児童の安全確保に努めるとともに、通学手段についても検討する。

2 特色ある学校づくりについて

(1) 小中一貫教育 《具体的な取組内容》 本冊4ページ

追記 小学校と中学校の施設等を共用し、充実した教育活動を展開します。

⇒施設が隣接していることによる利点を最大限に活かした教育活動を展開する。

(2) キャリア教育 《具体的な取組内容》 本冊6ページ

追記 立地条件を最大限に活かし、小中高が連携したキャリア教育を実践します。

⇒君津高校とのこれまでの連携をさらに発展・充実させたキャリア教育を実践する。

3 付帯事項について 本冊8ページ

統合を円滑に進めるとともに、保護者や地域関係者との対話を継続していくことを明らかにしていくため、付帯事項としてとりまとめた。

《統合について》

追加 統合を円滑に進めるための組織として、学校・保護者・地域関係者による統合準備室を設置して、新しい学校づくりを推進します。
また、プログラム決定後も、保護者や地域関係者と情報を共有しながら、子どもたちにとってよりよい教育環境づくりに努めます。